

委員会の動き

議会には3つの常任委員会のほか、議会運営委員会、広報特別委員会が設置されています。ここでは、常任委員会の活動内容を紹介します。

民生

新たな中間処理施設 令和9年の供用目指す

12月2日、十勝圏複

合事務組合「くりりんセンター」の現地視察を行った。十勝管内12市町村の一般廃棄物の焼却・破砕などを行っているごみの中間処理施設である。平成8年より供用開始され、余

熱を利用した発電施設やパークゴルフ場を備えている。12年より十勝管内8市町村の一般家庭から収集した容器包装系資源ごみを、選別・圧縮・梱包保管・リサイクル原料として、引き渡すまでの業務を行っている。

現施設はメンテナンスをしながら、令和9年に新施設の供用開始を目指し、「新中間処理施設整備基本構想」の策定が進められている。

経済性に優れた ストーカ式で処理

新施設では、管内17市町村のごみを共同処理する予定。焼却処理能力規模は日量286ト、大型・不燃ごみ処理量46トを受ける。建設費は概算で285億円(税別)とのこと。

安全性・経済性・環境

性の視点から比較評価した上で、処理方式は「ストーカ式」とした。建設費及び売電収入を含めた運転・維持管理費が低く、経済性に優れている。また、環境性においてもエネルギー回収量が多く、温室効果ガス発生量が少ない方式とのこと。

委員からは、一人ひとりがごみの分別の徹底を心がけて、減量化

総務 文教

11月29日、町内3か

所の現地調査を行った。緑南中学校は災害用マンホールトイレを備えた屋外トイレを整備した。これは平成28年8月に4連続台風の影響で学区一帯に避難勧



現状の施設の説明を受ける(くりりんセンター)

屋外トイレは防災仕様 荒地の柳町河川P G場

底を心がけて、減量化を推進すべきとの意見

があった。

告が出た際に、避難者が殺到した経験から、屋外トイレを防災トイレとしても併用できる構造とした。平時には通常使用されるが、有事には避難者がトイレ周りの土間に設置され

たマンホール上に、簡易トイレと TENT を設置し、10か所の災害用トイレとして増設利用できる工夫がなされている。今後計画的に避難所指定された学校にも整備予定である。ま



町の足跡をふり返る郷土資料室

た、併設した防災倉庫には、ダンボールベッド、個室確保のための簡易テントや大型照明など防災用品が揃っており、計画的に防災に対する施設と備品の整備が進んでいる。

響で、P G場としての姿を留めておらず、関係各位と再開に向けた議論が必要である。

農村環境改善センター 郷土資料室に期待

農村環境改善センターは、令和2年からの利活用を検討中である。センター内には郷土資料室が併設されており、展示物のほか在庫資料も豊富で、更なる拡充拡張が期待される。

経済建設

橋の長寿命化工事 新道の駅の現地調査

12月3日、3年前の台風災害によって、橋脚の地盤等が被害を受け、今秋通行止めが解除された「風雲橋」。その上流にある「上然別橋」橋梁長寿命化工事中の作業現場を視察し、説明を受けた。風雲橋と同様に、橋脚基礎部分の3基については、建設当時の河床、川底から約4〜5m掘り下げられており、地盤が沈下し橋脚の転倒も考えられることから、橋

脚の根元にブロック敷詰工事の真つ只中であつた。

駅北側に公園整備 更に魅力がアップ

その後、魅力発信エリア道の駅整備事業予定地の現況を視察。町道新北9線道路が整備の緒に付いたばかりの予定地上をバスで走り、隣接業者の樹木の伐採の目安や、国道241号線との高低差を確認。国の理解を得て、側溝のある道路西面に管を埋め、施設の排水が可能になったことや、



工事関係者から説明を受け現況把握(柳町河川緑地)

予定地北側の仮称道の駅公園の内容についても説明を受けた。

最後に、柳町河川緑地の十勝川維持工事のうち、音更川に係る工事の現況と、これまで行われた工事過程のビデオで施工業者より説明を受けた。

委員からは、橋脚の長寿命化工事について、近年の降水量の激変を考慮した計画の要望があり、道の駅は完成後の運営が重要で、準備をぬかりなくしてほしいなどの意見があつた。